

活動報告書

遠藤由貴（エクアドル・栄養士）

配属先である保健事務所では、妊産婦・乳幼児・青少年グループを主な対象とし、彼らの生活改善のための様々なプロジェクトに携わった。赴任して1年少し経った時、診療所での活動も始めた。栄養士の研修生と待合室での栄養教室や患者への栄養指導、妊産婦・高血圧・糖尿病患者を対象とした生活改善のためのクラブに携わった。他に、小中高等学校や大学、高齢者施設を訪問して栄養と衛生に関する講義をした。妊婦や高齢者、何らかの疾患のある住民を中心として、医師や看護師とともに家庭訪問も行った。また、市の移動図書館に同行し、田舎の小学校を訪れた。自分ができる活動について積極的にアピールしたので頻繁に同行させてもらった。



文化や習慣を深く理解する必要がある。とりわけ栄養指導において、この国の食生活を把握するのに時間がかかった。

駒ヶ根での訓練期間を含めた2年と70日は、私の人生においてかけがえのない貴重な経験になった。訪れたことのない、言語も文化も習慣も全く違う地での生活はとても新鮮で刺激的だった。また、目の前にある様々な困難に前向きに立ち向かうことの難しさと楽しさ、それを成し遂げた時の大きな喜びを学んだ。たった2年ではこの国の全てを知ることはできなかったが、地域によって異なる人柄、多様な民族の存在はとても興味深かった。



任期中に最も大切にしたのは、人との縁を大切にすることである。活動がうまくいかず落ち込んでばかりいた時期もあったが、ここで出会った多くの人に支えられながら2年間を終えることができた。私生活だけでなく仕事でも助けてくれる友人が多く、本当に感謝でいっぱいである。エクアドルの人々の力になりたいとやって来たが、私が貢献できたのはほんの少しだった。その代わりに、彼らからたくさんのことを教わった。中でも一番感銘を受けたのが「愛」である。この国ではとりわけ家族への愛が深く、それは家族よりも仕事を優先してしまいがちな日本に生まれた私の今後の人生に大きな影響を与えた。